

令和3年度 富山県立大門高等学校 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

学習活動については、昨年度と同様、1年生全員に1週間の家庭での学習時間が14時間以上になる目標を設定した。日々のきめ細かい指導により、定期考査期間では96%が73%に、4月～12月までの通算では83%が57%となり昨年度を下回った。また、学習の理解度が深まったと実感する生徒の割合も57%で、70%以上とする目標に届かなかった。今回は昨年度と集計対象を変更(1週間分入力されたデータのみを使用)したため全体の傾向を把握しづらかった。まずは、データ入力率をあげる工夫が必要である。

生徒の学校生活に対する満足度は、69.8%が65.5%に、学校行事・生徒会活動に対する満足度は、49.9%が48.6%となり昨年とほぼ変化がなかった。今年度も昨年と同様にコロナによって多くの学校行事が中止や縮小になった。行事の実施のために「できること」を考え、積極的に取り組みに参加した生徒がいる一方で、行事が本来の形で実施されずに満足感を得られない生徒もいたと考えられる。また、交通事故・自転車事故の発生件数を「0に近づける」という目標を設定したが、昨年度の事故件数の3件から6件と増加した。今年度は交通安全教室を開催できず、自転車の安全な走行ルールと事故防止の徹底を十分に図ることができなかった。

進路支援に関しては、1・2年次における進路目標の明確化を図るため、キャリア教育を充実させた。1学年では志望分野、2学年では志望校の決定率をそれぞれ80%に設定した。結果は「志望分野決定率」60%、「志望校の決定率」44%となり、目標値に到達できなかった。コロナ感染拡大によってオープンキャンパスや講演会、体験学習の中止が相継ぎ、主体的に進路志望を明確化する機会が減ってしまったことが影響していると考えられる。また、3年次の進路志望の実現達成度(進路決定者の割合)は99%となった。これは、国公立大学に限らず生徒主体の進路指導に加え、オンラインを利用して進学関係の情報を随時発信することで、進路意識の向上に繋がったと考えられる。

地域との連携推進と部活動の充実については、地域での活動(行事等)への参加生徒の割合を60%以上に設定したが、46.9%にとどまった。生徒会執行部と地域ボランティア委員会で清掃活動を企画した他は実施できなかった。また、部活動では加入率と満足度の目標を80%以上に設定した。加入率は95.4%に、満足度は77.4%となった。特に3年生にとって最後の大会が開催されたことが目標の達成に繋がったと考えられる。

情報教育の推進では、情報発信に取組む機会を増やし、適切な方法で情報活用スキルを身につけさせる目標を設定し、1年生は進路探究報告書の作成、2年生はテーマ別学習のレポート作成とプレゼンテーションを実施した。教師の活動では、オンライン授業実施のための研修と教育用クラウドシステムの効果的な使用法の研修を行った。また、各教科でタブレットPCを使用する授業を参観する機会を設けたことで効果的な活用が促進されたものと思われる。

7 次年度へ向けての課題と方策

次年度も教育用クラウドサービス「Classi」による学習過程での振り返りやその評価、さらには「生活の記録」を活用した学習時間の点検や実態把握をしながら、生徒一人一人の学力や生活状況に応じた指導・助言による効果を検証し、生徒が主体的に学習に取り組めるシステム「大門スタンダード」を築きあげていきたい。また、生徒の満足度の内実の把握のため、調査方法の工夫など内容も検討し実態に即した情報が取得できるように努めていきたい。

学校生活と特別活動については、生徒会執行部や委員会を中心とした生徒の主体的な活動に対して積極的に支援するとともに、ボランティア活動だけではなく地域の課題に取り組む地域課題研究等を加えて地域交流を推進していきたい。また、交通事故の具体的な発生状況を周知するとともに、関係機関とも連携し、自転車の安全な走行ルールと事故防止の徹底に努めていきたい。

本校では今年度、生徒一人一台タブレットPCが割り当てられたことでオンライン授業を含め、授業におけるタブレットPCの用途が大きく広がった。多くの教職員が様々な場面で有効に活用していけるよう、ICT支援員による教育用クラウドサービス研修会を実施するなど生徒や教員のICT活用能力をさらに発展・向上させることで、生徒の学習意欲を高め、学力向上を図る環境づくりを推進していきたい。

進路指導については、今年度「大門高等学校グランドデザイン」が策定された。それに基づき大門高校GP(Graduation Policy)を設定し、生徒による自己評価を積み重ねることで、キャリア形成を図り、進路実現への支援を行いたい。